

建設地	： 千葉県流山市	竣工	： 平成 30 年 11 月	敷地面積	： 451.74 m ²
地域区分	： 6 地域	用途	： 専用住宅	延床面積	： 82.62 m ²
設計者	： (株) 里山建築研究所	構造・階数	： 木造軸組・地上 1 階	建築面積	： 92.28 m ²

■提案の概要

- 首都圏郊外の比較的新しい宅地ではあるが歴史ある流山街道に近い敷地に建つ住宅で、歴史的景観に配慮し、日本瓦の屋根、下見板張りの外壁の他、県産材（山武杉）を構造材・造作材・建具材等に使用した伝統的な構法で家全体が構成されている。南側道路が低い比較的広々とした敷地特性を活かし、南面からの日射利用に配慮した広い縁側や土縁といった空間構成や、通風を得やすい条件を活かした地窓・越屋根・大きな掃き出し窓といった開口部が設けられている。
- 地域の気候風土に応じた木造建築の要素技術については、縁側、小屋組み現しかつ野地板現し、地場製作の木製建具、土縁等を採用している。
- 現行の省エネ基準では評価が難しい環境負荷低減に寄与する対策については南北に並ぶ続き間、深い軒庇、越屋根と小壁の横すべり出し窓による換気促進、伝統的な継手仕口を扱える大工職人の登用等、伝統的技術、機能・性能、景観・意匠をバランスよく配慮した設計となっている。外壁は落とし込み板壁の内壁+木摺+下見板張りで構成され、無断熱ではあるが、屋根、床、開口部で断熱化を図り、伝統的な意匠を採用しつつ、できる限り外壁性能を高めている。



越屋根のある日本瓦の屋根と板壁が特徴的な外観




落とし込み板壁構法の開放的な空間





お施主様の生活を反映した空間構成

写真：齋藤さだむ（3点とも）

■地域の気候風土への適応・環境負荷低減対策

凡例：気候風土への適応 

環境負荷低減対策 

□続き間  



南北2室が和室の続き間。
さらにLDK含め3室が続き間で空間の可変性がある。
畳は60mm厚の畳が使用されている。



続き間



深い軒・庇

□深い軒・庇  

切妻の軒の出900mm
北面の土間全面に柱を建て庇を掛けている。

□土縁  


縁側に続く土縁がある。




土縁



落とし込み板壁

□落とし込み板壁 

落とし込み板(30mm) + 木摺 + 下見板張りの外壁。

□越屋根 


越屋根が設けられ、小壁に横滑り出し窓を設け換気を促している。





越屋根



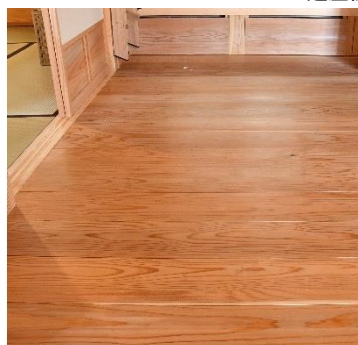
縁側と木製建具

□縁側と木製建具  

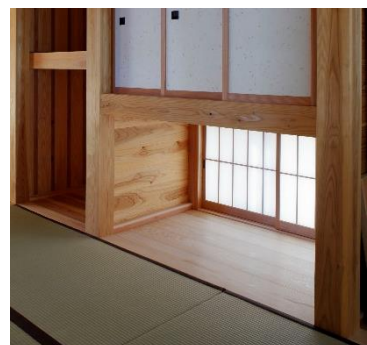
奥行1,212mmの縁側。
地場製作の木製建具が使われている。

□床板張り  

杉板30mm



床板張り



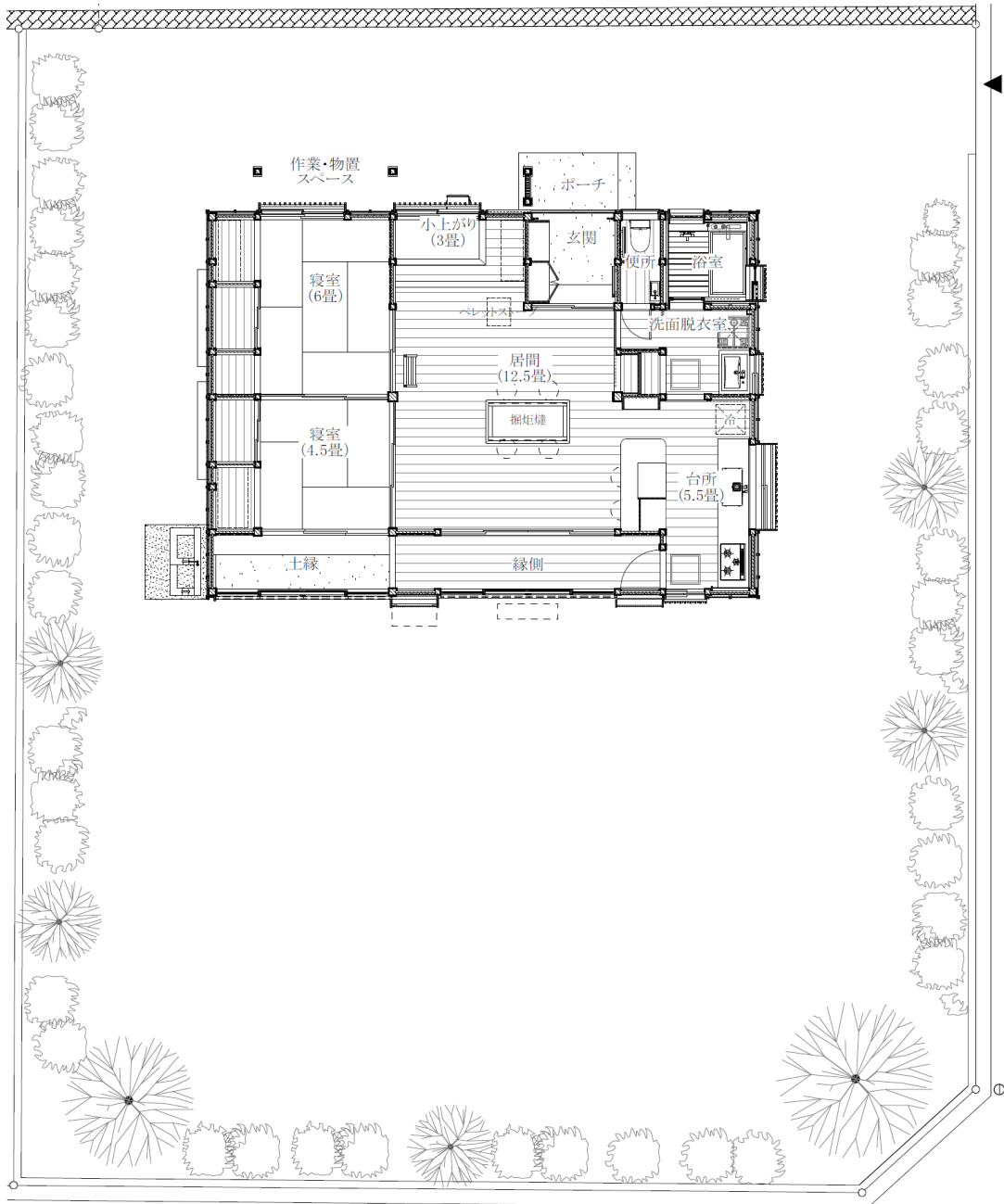
地窓

□地窓  

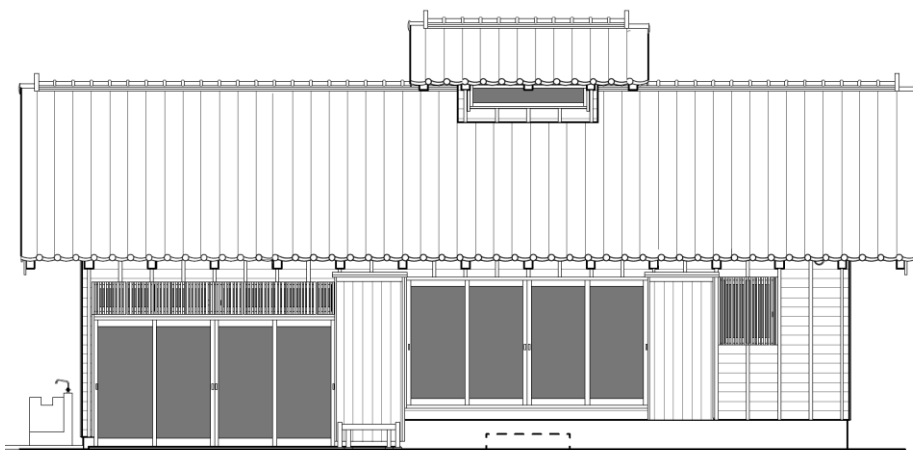
越屋根との組み合わせで通風経路が確保されている。

■エネルギー性能（採択時）

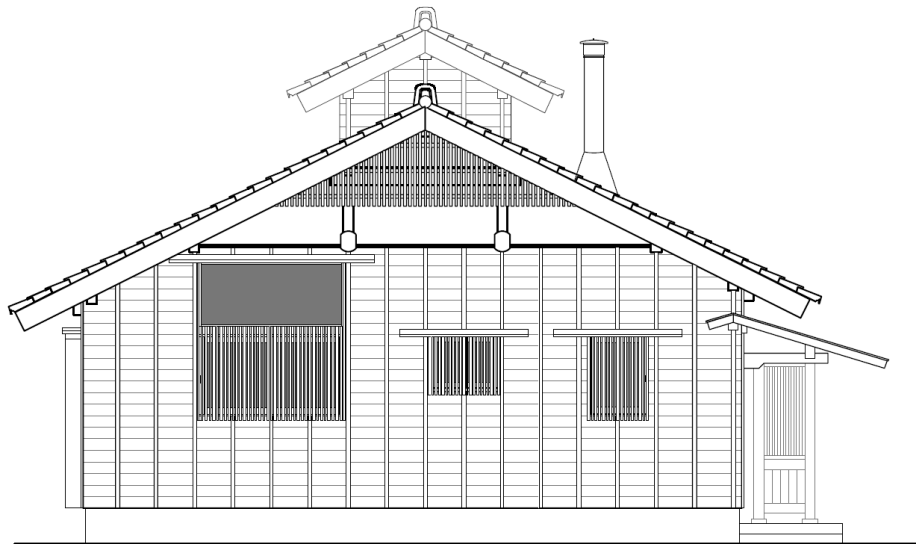
項目	基準値	設計値
評価方法	Webプログラム 気候風土適応住宅版による評価	
地域区分	6地域（千葉県流山市）	
外皮平均熱貫流率（ U_A 値）	0.87以下	1.07 W/($m^2 \cdot K$)
一次エネルギー消費量	78.8以下	75.5 GJ/(戸・年)
一次エネルギー消費性能（BEI）	1.0以下	0.95



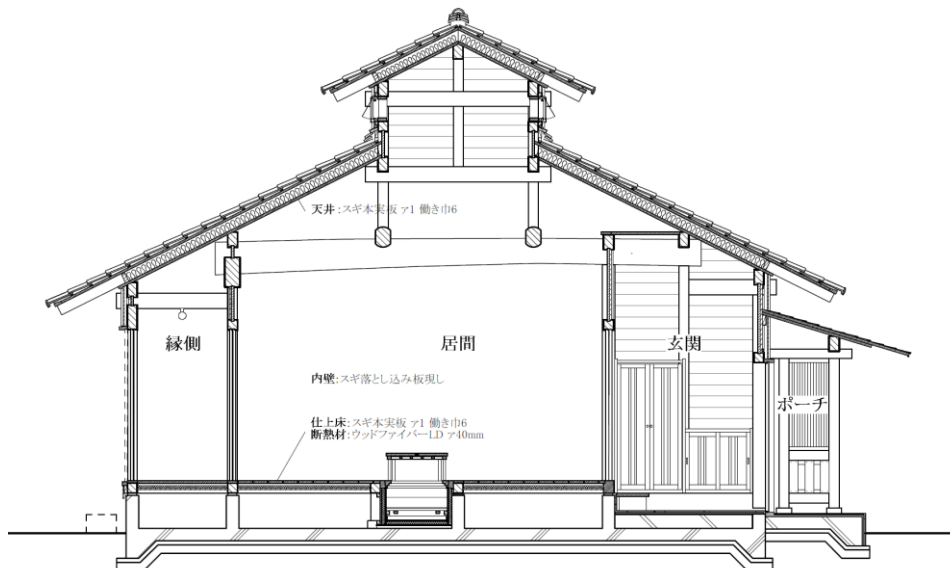
平面図



南側立面図



東側立面図



矩計図

■お施主様の声

両親が暮らしたこの土地に自分たちの終の棲家を建てるにあたり、子供の頃の田舎暮らし（茅葺・越屋根・三和土など）を実現できる設計コンセプトを有する里山建築研究所さんに依頼しました。

庭で育てた野菜を収穫し、広い縁側とそれに続く三和土の土間（土縁）で干し芋などの干し野菜を作る生活を楽しんでいます。厚い板張りの床は、冬でも足元が冷たく感じることはなく、快適に過ごしています。

東西南北に風が抜ける工夫がされているほか、越屋根からも風が抜けるので、とても心地よい風を感じています。

壁や建具など、内部にも木をふんだんに使っているのも、とても落ち着き、肉体と建物の呼吸が同調しているような快適さを感じています。

■設計者の声

流通材を無駄なく使うことを基本に、現代における民家として、板倉構法を中心とした家づくりを行っています。板倉構法は現代の里山である杉の人工林を活かす構法です。

お施主様と話し合いを重ね、今までの暮らしやこれからの住まい方を聞き取り、少しずつ読み解いてお互いの理解を深めていきました。なるべく空調設備に頼らず生活できるよう、高窓や地窓、越屋根、幅の広い縁側等を設けました。縁側は、木製雨戸、複層ガラスの木製建具、障子の三重構成とし、季節に応じて調整できるようにしました。無垢材は手間ひまがかかりますが、メンテナンスフリーの家ではなく、手間ひまのかけ甲斐のある家づくりを心掛けています。それは、住まい方を一緒に考え、作り上げていく、ということが不可欠だと考えています。